

中関小児童と地域住民「対面の会」

登下校の見守りに感謝

4年生は安心・安全マップを作成へ

中関小(亀田浩太郎校長、723人)で1日、登下校を見守る地域住民ら約30人を招いて「対面の会」が開かれた。安全への意識を高め、地域が見守ってくれる大切さを感じてもらおうと企画した。

会のメンバーらを前に、児童代表の6年吉富斗惟君が「皆さんが見守ってくださるおかげで、全員が毎日楽しく登校し、安全に帰れている」と感謝を伝えた。

続いて、登下校の注意点などについて地域住民と意見を交わした。交通量が多かったり、道が狭うかわからない。備えを

いポイントに加え、大雨時などに危険な場所、不審者への警戒も挙がつた。この日の意見などを基に、4年の136人が6月下旬までに安心・安全マップをつくり、発表する予定だ。水野寛乃さん(9)は「災害がいつ来るか、不審者といつ遭

う。また、コロナ禍の収束に触れて「地区の行事なども戻りつつある。子どもたちの笑顔に会えるこ

守ってほしい」とい

やマナーを

交通ルール

る。大人も

もらって

さつが楽しみで、元気を

つもと子どもたちのあい

太田秀信会長(72)は「い

中関地域みまわり隊の

しておきたい」と話した。



通学路の注意点などを話しながら、4年生がマップづくりに取り組む

とが楽しみ。自治会や民生委員、行政や市社協との連携も大切にしていきたい」と期待した。

(杉田雄)



登下校と見守る地域住民らと全校児童が対面

「対面の会」

令和5年5月13日
ほうふ日報